



平成19(2007)年6月20日(水)発行
発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹
<http://www.nakayamaclinic.jp>

リタイアはまだまだ早い

院長 中山 茂樹

“虎穴に入らずんば、虎児を得ず”と言われるように子供たちもある程度危険な経験をしないと成長しません。ライオン(獅子)は我が子を崖から突き落とし、這い上がってくるのを待つと言われます。私もついつい我が子を甘やかすことはありますが、私が考えて正しいこと、誤っていることについては、色々話し合っ善悪について考えさせて教えているつもりです(あくまでつもりですが…)。だから学校は学校で信ずる教育をしてくれればいいのだと思いますが、新聞などで報じられる小学校での親たちの学校に対する理不尽なクレームにはほとんどあきれています。

私の子供の頃は親、先生に叱られて、たたかれたり、立たされたり、今となっては良い経験でした。もう少し、先生も遠慮なしに信念をもって子供を叱って下さい。

これからが本題です。

私もこの年になっていろいろ経験をさせてもらっています。私の役割はまさに外科医なので、常々外科医には定年があると思っています。(内科の医師は余り定年とは関係ないようです…当院のホームページをご覧ください。)

さて、それがどういう訳か私が近々仕事を辞めるという噂が広がっているようですね。面白い話です。しかし、外科医としての技術は私は今が頂点位に考えています。ですから、当院をやめるとか私が医師をリタイアするにはまだまだ早いと考えています。

そういえば、その昔、私の丸山の自宅がセールに出されたという噂が4回も流れた覚えがあります。今回は私のリタイアの噂、誰が言い出しっぺなのですかね。世の中の人はその噂が面白いのですかね。噂って本当に虚実入り交じっているものなのですね。

但し、私もいつかはリタイアするので、その後は、10代の頃の夢を追って行きたいと考えています。その夢というのはボランティア活動です。何を、どんな形でやるかはまだ未知数の部分がありますが、その準備を徐々に始めているところです。

コムスの問題が非常に話題になっていますが、私の10代の頃からのポリシーは“福祉はボランティアで!、金儲けの道具にはしない”というものでした。だからリタイアした後はそんな道かな、と考えています。私のリタイアの頃には果して年金がもらえるのかな、と不安がっていてもいますが、何とか生活が出来れば好きな道を選び、

のんびりと余生を送れば人生は楽しいものだと思っております。

娘は踊れても

検査 木村 仁恵

今年の春より5年生の娘がよさこいを始めました。きっかけは友達が行っているから。狭い家の中で一人で踊っているので、それなら外で思いっきり動かしてみたらということになりました。

毎週、小学校の体育館で金曜日 20:00~21:30、第2と第4土曜日にもあります。親子とも少し忙しい週末になりました。(勿論、母は送迎と見ているだけですが…) 何人かの人はこの冬頃より活動しているため、すでに憶えている状態でしたが、うちの子を含め少し遅れて入った子供たちは、さすがに若く、あっという間にマスターし、毎日のように家でも踊っています。大人の方も何人かいるのですが、とても上手でよく体がうごくなあと感心させられます。「お母さんもどうぞ」と誘われるのですが体の大変固い私にはどうもついていけません。

先日は地区の敬老会にも出席させてもらい、初めて舞台上緊張しながらも楽しく演舞することが出来たようです。夏にはマリンピア、大火勢などへの出場も予定しており、それに向けて全員頑張っ練習に励んでいます。

... ..

日本の今の医師問題の一つを考える資料を下に掲載します。
(「中日新聞」6月10日の日曜版から)

